

日 時 平成29年3月25日（土） 12:30～14:00

場 所 日本病院会ホスピタルプラザビル 3階会議室

出席者 堺 常雄（会長）

末永 裕之、岡留健一郎、相澤 孝夫、宮崎 瑞穂、大道 道大（各副会長）

前原 和平、藤原 秀臣、万代 恭嗣、高木 誠、中井 修、中嶋 昭、中 佳一、  
生野 弘道、中島 豊爾、土井 章弘、塩谷 泰一、安藤 文英（各常任理事）

柏戸 正英、藤原 久義、石井 孝宜（各監事）

野口 正人（オブザーバー）

木村 純、牧野 憲一、田中 繁道、望月 泉、田林 暁一、濱崎 充、小松本 悟、  
丸山 正董、小林 繁樹、仙賀 裕、新江 良一、岡部 正明、山田 哲司、井上 憲昭、  
阪本 研一、田中 一成、山本 直人、松本 隆利、金子 隆昭、木野 昌也、松谷 之義、  
佐々木順子、青山 信房、成川 守彦、土谷 晋一郎、三浦 修、武久 洋三、中川 義信、  
厚井 文一、岡田 武志、細木 秀美、竹中 賢治、藤山 重俊、松本 文六、石井 和博  
（各理事）

佐藤 眞杉、大井 利夫、村上 信乃、宮崎 忠昭（各顧問）

高久 史磨、楠岡 英雄、邊見 公雄、今泉暢登志、坂本 すが（代理：菊池 令子）、  
篠原 幸人、松田 朗、池上 直己、富田 博樹（各参与）

後藤 敏和、片柳 憲雄、三浦 将司、毛利 博、福井 洋（各支部長）

阿南 誠（日本診療情報管理士会 会長）

総勢76名の出席

堺会長の開会の挨拶の後、定足数65名に対して出席53名で（過半数33名）会議が成立している旨の報告があり、岡留副会長の司会により議事に入った。

## 〔承認事項〕

### 1. 会員の入（退）会について

第5回（平成28年11月）～第8回（平成29年2月）常任理事会承認分の下記会員異動について審査し、承認した。

〔正会員の入会14件〕

- ①国立病院機構・独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター（会員名：霜坂辰一院長）
- ②市町村・世羅中央病院企業団 公立世羅中央病院（会員名：多幾山渉企業長）
- ③医療法人・社会医療法人医翔会 札幌白石記念病院（会員名：野中雅理事長）
- ④医療法人・医療法人社団善衆会 善衆会病院（会員名：木村雅史理事長）
- ⑤医療法人・医療法人社団白美会 白根大通病院（会員名：新田幸壽院長）
- ⑥医療法人・医療法人藤聖会 八尾総合病院（会員名：藤井久丈理事長）
- ⑦医療法人・医療法人東和会 第二東和会病院（会員名：山崎元院長）
- ⑧医療法人・医療法人社団あんしん会 あんしん会病院（会員名：岩崎安伸会長）
- ⑨医療法人・医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院（会員名：大西英之理事長・院長）
- ⑩医療法人・医療法人社団輔仁会 太田川病院（会員名：満田一博理事長）

- ⑪社会福祉法人・社会福祉法人十愛療育会 横浜医療福祉センター港南（会員名：根津敦夫センター長）
- ⑫その他法人・一般財団法人新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院（会員名：内山聖病院長）
- ⑬その他法人・一般財団法人京都地域医療学際研究所 がくさい病院（会員名：小西哲郎病院長）
- ⑭その他法人・社会医療法人美杉会 みのやま病院（会員名：佐藤眞杉理事長）

[正会員の退会 5 件]

- ①医療法人・医療法人潤和会 札幌ひばりが丘病院（会員名：高橋大賀理事長）
- ②医療法人・医療法人社団和光会 にじのまち病院（会員名：渡辺嘉久理事長）
- ③医療法人・医療法人啓信会 京都四条病院（会員名：中野昌彦院長）
- ④医療法人・医療法人常磐会 ときわ病院（会員名：中川泰一理事）
- ⑤医療法人・医療法人尚愛会 小田原病院（会員名：小田原良治理事長）

[下記会員より退会届出があつたが、役員慰留により撤回 2 件]

- ①静岡県・医療法人社団青虎会 フジ虎ノ門整形外科病院（慰留者：毛利博静岡県支部長）
- ②福岡県・独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院（慰留者：岡留健一郎副会長）

[特別会員の退会 2 件]

- ① 別会員A・医療法人社団寛和会 武蔵野小金井クリニック総合健診センター（代表者：金光寛承理事長・院長）
- ② 特別会員A・一般社団法人北九州市小倉医師会 小倉医師会健診センター（会員名：宇野卓也会長）

[賛助会員の入会 4 件]

- ① A会員・エプソン販売株式会社（代表者：一杉卓志ビジネス営業企画部部長）
- ② A会員・株式会社同文書院（代表者：宇野文博代表取締役）
- ③ A会員・株式会社ジャパンビバレッジホールディングス（代表者：秋本定己取締役営業本部長）
- ④ A会員・コクヨマーケティング株式会社（会員名：西川弘高代表取締役社長）

[賛助会員の退会 2 件]

- ① D会員・2名

平成29年2月26日～平成29年3月24日受付分の下記会員異動について審査し、承認した。

[正会員の入会 6 件]

- ①医療法人・医療法人幸寿会 平岩病院（会員名：大久保憲院長）
- ②医療法人・医療法人大慶会 星光病院（山本慶理事長）
- ③社会医療法人・社会医療法人弘道会 なにわ生野病院（会員名：生野弘道理事長）
- ④社会医療法人・社会医療法人弘道会 寝屋川生野病院（会員名：生野弘道理事長）
- ⑤私立学校法人・東京医科大学茨城医療センター（会員名：小林正貴病院長）
- ⑥私立学校法人・東京医科大学八王子医療センター（会員名：池田幸穂病院長）

[正会員の退会 7 件]

- ①市町村・一般財団法人魚沼市医療公社 国民健康保険魚沼市立掘之内病院（会員名：永瀬敏明院長）
- ②共済及連合・地方職員共済組合 愛知三の丸病院（会員名：松波龍幸院長）
- ③医療法人・医療法人社団浩蓉会 埼玉脳神経外科病院（会員名：松浦浩理理事長）

- ④医療法人・医療法人弘智会 上山病院（会員名：上山健弘理事長）
- ⑤医療法人・医療法人弘仁会 瀬藤病院（会員名：瀬藤弘行理事長）
- ⑥医療法人・医療法人宮本病院（会員名：宮本典亮理事長）
- ⑦医療法人・医療法人高潮会 潮江高橋病院（会員名：高橋正子理事長）

〔賛助会員の入会 6 件〕

- ① A会員・株式会社アップルパーク（代表者：山中直樹代表取締役社長）
- ② A会員・株式会社沖データ（代表者：波多野徹代表取締役社長）
- ③ A会員・株式会社安城電機（代表者：林典英代表取締役）
- ④ B会員・学校法人三幸学園 大宮医療秘書専門学校（代表者：増田泰朗校長）
- ⑤ B会員・金城大学（代表者：半谷静雄学長）
- ⑥ B会員・学校法人帝京平成大学（代表者：沖永寛子学長）

〔賛助会員の退会 3 件〕

- ① A会員・公益財団法人国際看護交流協会（代表者：清水嘉与子理事長）
- ② A会員・日本データカード株式会社（代表者：廣澤公朗代表取締役社長）
- ③ B会員・学校法人秋葉学園 東京豊島IT医療福祉専門学校（代表者：菊地正己学校長）

平成29年 3 月25日現在 正会員 2,469会員  
 特別会員 185会員  
 賛助会員 260会員（A会員109、B会員119、C会員 4、D会員28）

## 2. 関係省庁及び各団体からの依頼等について

下記依頼事項について審議し、依頼を承認した。

（継続：後援・協賛等依頼 4 件）

- ①公益社団法人日本生体医工学会／『第23回第 1 種ME技術実力検定試験』の協賛
- ②日本准看護師連絡協議会／平成29年度准看協教育研修事業の共催
- ③一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター／『ヒートポンプ・蓄熱月間』に対する協賛名義使用
- ④公益社団法人臨床心臓病学教育研究会／アジア・ハート・ハウス大阪セミナーに対する後援名義使用

（継続：委員等依頼依頼 2 件）

- ①公益財団法人日本医療機能評価機構／各種委員会委員の推薦  
 企画調整委員会委員〔就任者…中井常任理事（再任）〕  
 評価事業運営委員会委員〔就任者…相澤副会長（再任）〕  
 医療事故防止事業運営委員会委員〔就任者…生野常任理事（再任）〕
- ②公益財団法人日本医療保険事務協会／試験委員の委嘱〔就任者…畑田康政先生（新任／山手メディカルセンター消化器内科診療部長）〕

## 3. 《社員総会資料》平成29年度事業計画（案）について

堺会長より社員総会提出予定の議案について以下の説明があり、承認した。

- ・ 5 月に役員改選が予定されているので、これは新執行部のもとで実施される事業計画となるものであり、8 点の重点項目から成っている。大筋は平成28年度事業計画をもとに作成した。
- ・ 1、見える化の推進。ここに（7）各種事業評価という項目を新設した。来年度はさらにその充実を図りたい。
- ・ 2、一般社団法人としての基盤整備。電子ジャーナル共同購入にさらに力を入れて推進する。

- ・ 3、持続的な医療・介護の推進。「将来に向けた病院医療の推進」という平成28年度の項目を、この名称に変更した。(1) 医療計画策定に向けた取組み。病院会としてこれに重点的に取り組む。(2) 税制のあり方について検討。これは医療保険制度とあわせて総合的に検討したい。(3) 平成30年度診療報酬改定に向けた取組み。診療報酬の同時改定に向けて、この項目を設けた。
- ・ 4、病院職員の人材育成。病院会として病院総合診療専門医の育成に取り組みながら専門医制度の推進を目指す。次期病院管理者の育成にも力を入れる。
- ・ 5、医療の質と安全の推進。引き続き基本法、終末期医療、事故調制度への取り組みを行っていく。QIプロジェクトを継続する。
- ・ 6、国際活動。アジア病院連盟、国際病院連盟、アジア・パシフィック・ネットワーク等の活動が順調に進んでいる。WHOへの協力と支援及びIFHIMA国際学会に関する活動を続行する。
- ・ 7、医療関連団体との連携推進。これは継続的に行っていく。
- ・ 8、国際モダンホスピタルショー、病院イノベーション展等への取組み。歴史の長い国際モダンホスピタルショーとともに、3年前に開始した病院イノベーション展にさらに積極的に取り組むために今年度からは共催という形で関与している。
- ・ スケジュールに記載のとおり、各種学会、役員会、委員会、セミナー・講習会、国際活動、通信教育等の開催が予定されている。

#### 4. 《社員総会資料》平成29年度収支予算(案)について

相澤副会長より社員総会提出予定の議案について以下の説明があり、承認した。

- ・ 経常収益の部。経常収益合計は平成28年度と比べて4,265万8,000円増の11億9,090万3,000円を予定している。正会員の増加、診療報酬と介護報酬の同時改定に関する説明会実施の収入、JHAstisの有料化、病院イノベーション展を共催することによる収入等が主なものである。人間ドック部会費や通信教育による収入等は減を見込んでいる。
- ・ 経常費用の部。全体として、本年度の実績をもとに予算計上した。日本病院団体協議会関係費、四病院団体協議会の費用、負担金等は、本年度実績に合わせて計上。支部助成金は1病院当たり3,000円の支援を5,000円に増額。総会費は本年度とほぼ同額であるが、常任理事会費と理事会費は開催数の変更に伴い大幅に変更した。研究研修会費では、診療報酬と介護報酬の同時改定説明会の費用を計上。通信教育の新カリキュラム導入のために旅費交通費、諸謝金等を増額。スクーリングの開催回数を増やすために賃借料も増額した。ICD-10の簡易版の印刷のために印刷製本費計上した。セミナー1は減額、セミナー2は増額している。統計情報関係費の派遣人件費を増額。項目の変更により、システム関連保守料が減り委託料が増えている。国際交流費は本年度並みに計上。事務諸費では給与手当と法定福利費が減って派遣人件費が増えている。病院経営管理士通信教育40周年祝賀会開催のために200万円を計上した。全体の経常費用は11億2,977万1,000円であり、平成28年度予算と比べて1,172万2,000円の増となる。減価償却前当期経常利益は6,113万2,000円であり平成28年度と比べて3,093万6,000円の増となる。
- ・ 投資活動収入の部では、職員用パソコンの交換費用を支出するために特定預金取崩収入が700万円としている。投資活動支出の部では、支出はない。
- ・ 財務活動収入の部では、収入はない。財務活動支出の部では、長期借入金返済支出が7,134万円となっている。
- ・ 当期収支差額の合計はマイナス320万8,000円となり、前期繰越収支差額が1,677万4,162円であるので次期繰越収支差額1,356万6,162円という予算にしたい。

## 5. 医療国際展開協力フォーラム（MEJ）への入会について

堺会長より以下の提案があり、承認した。

- ・MEJは、政府の日本再興戦略の中で医療の国際展開を担う中核機関として位置づけられている組織で、理事長に就任した日病の山本修三名誉会長のもと、様々な活動を展開している。
- ・医療国際展開協力フォーラムはMEJが発足させた交流の場であるが、日本病院会としてもこのフォーラムに参加してMEJとともに国際事業の展開を図りたい。

## 6. 人間ドック健診施設機能評価認定施設の指定について

岡留副会長より報告を受け、下記4施設を認定承認した。

(更新4件)

- ①埼玉県・医療法人財団新生会 大宮共立病院 総合健診プログラム
- ②群馬県・独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院
- ③福井県・福井赤十字病院 健診センター
- ④栃木県・社会医療法人中山会 宇都宮記念病院 総合健診センター

## 7. 日本准看護師連絡協議会への賛助会員（団体）加入について

末永副会長より以下の提案があり、承認した。

- ・日本准看護師連絡協議会は、もともと日精協及び日本医師会がメインになっているのであるが、四病協でもこれを支援する形で進んでいる。
- ・この協議会に賛助会員（団体）として、1口ではなく5口まで参加する。

### 〔報告事項〕

#### 1. 各委員会等の開催報告について

日本病院会の下記委員会その他の報告があり、了承した。

##### (1) 第2回感染症対策委員会（3月6日）

末永副会長より、以下の報告があった。

- ・毎年開催している感染制御講習会は大好評であるが、総論だけでなくすぐに役立つ内容を増やことやアウトブレイク時の対処方法等に関する要望があり、内容の一部変更を検討するとともに、名称も「感染対策担当者のためのセミナー」に変更する。
- ・参加者が減少する傾向にあることへの対策として、現在の1泊コースから1日コース3クール制への変更を検討している。
- ・AMR対策、アウトブレイク時の対応等の講義を追加するとともに、講師陣の若返りを図る。
- ・木村委員長から退任の申し出があり、岩田委員が新委員長に就任する予定である。
- ・当委員会のメンバーから定期的に日病の雑誌にニュースを流していく。

##### (2) 第1回専門医に関する委員会ワーキンググループ（3月9日）

中常任理事より、以下の報告があった。

- ・会長の指示のもと、当会として病院総合医を育成する取り組みを行う。対象は卒後6年以上の医師、養成期間は2年を基本にする
- ・共通のカリキュラムやプログラムを作成して来年4月からスタートするため、このワーキンググループを設けて第1回目の会合を開いた。
- ・ほぼ1カ月ごとに会合を持ち、6月の常任理事会には一定の案を提案できるように努める。

##### (3) 第1回認定個人情報保護団体審査委員会（3月23日）

中常任理事より、以下の報告があった。

- ・改正個人情報保護法及び医療・介護用ガイダンスについて厚労省参事官らによる解説が行

われた。

- ・法改正に伴う指針並びに業務規約の改定において当会が果たすべき役割について一定の理解が得られた。
- ・平成28年度の苦情処理依頼及び個人情報保護の相談についての報告がなされた。

#### (4) 第1回ホスピタルショウ委員会 (3月15日)

宮崎副会長より、以下の報告があった。

- ・来年度のホスピタルショウは「健康・医療・福祉の未来をひらく～連携と地域包括ケアの充実を目指して～」というテーマで、7月12～14日に東京ビッグサイトで開催される。
- ・ホスピタルショウ恒例の日病の公開シンポジウムの内容を検討し、テーマは「病気をしても働くために！」に決定した。シンポジストは、その取り組みをしている中小企業、元患者、産業医、MSWの4者に依頼する。日病コーナーでは、同テーマに沿った形でのパネル展示を行う。

#### (5) 病院経営の質推進委員会 第2回病院経営管理研修会 (2月24日)

牧野理事より、177名の参加申し込みがあり、168名が参加して盛会であったとの報告があった。

#### (6) 病院経営の質推進委員会 病院中堅職員育成研修「経営管理コース」 (3月3日)

牧野理事より、このコースには53名の参加があったとの報告があった。

#### (7) 病院経営の質推進委員会 病院中堅職員育成研修「薬剤部門管理コース」 (3月10日)

牧野理事より、このコースには58名の参加があったとの報告があった。

#### (8) 病院経営の質推進委員会 病院中堅職員育成研修「医事管理コース」 (3月11日)

牧野理事より、このコースには49名の参加があったとの報告があった。

#### (9) 診療情報管理士通信教育関連

##### ①平成28年度第10回診療情報管理士認定試験および追試験 (2月12・26日)

大井顧問より、以下の報告があった。

- ・今年是全国17会場で試験を実施した。2月12日に中国地方の大雪により参加できなかった者のために追試験を2月26日に実施した。
- ・本試受験者は3,768名、追試受験者は7名。合格率は44.5%であり、今年は低調であった。

##### ②第5回診療情報管理士教育委員会 (3月3日)

大井顧問より、以下の報告があった。

- ・B会員になった金城大学が指定大学の新規申請をしてきたので了承し、視察する。
- ・通信教育における診療情報管理士の会場や講師を確保するのが難しくなっている中で、基礎課程でウェブ教育の導入を視野に入れて当委員会で検討を始めた。

##### ③コーディング勉強会 (2月17日)

報告は資料一読とした。

##### ④医療統計学勉強会 (2月17日)

報告は資料一読とした。

##### ⑤基礎課程勉強会 (平成28年9月11日～29年3月19日)

報告は資料一読とした。

##### ⑥第4回腫瘍学分類コース小委員会 (2月22日)

報告は資料一読とした。

##### ⑦第3回医師事務作業補助者コース小委員会 (2月22日)

報告は資料一読とした。

##### ⑧第3回DPCコース小委員会 (2月24日)

報告は資料一読とした。

#### (10) 日本診療情報管理学会関連

##### ①第3回編集委員会（2月22日）

末永副会長より、以下の報告があった。

- ・「診療情報管理」第28巻4号に第41回学術大会の主要プログラムからの原稿を掲載する。
- ・論文の質を上げるために、投稿するに当たっての注意点等も含めて、論文の書き方の手引書を作成する予定である。

##### ②第11回業務指針・記載指針改定小委員会（2月28日）

末永副会長より、以下の報告があった。

- ・診療情報管理学会の業務指針・記載指針ができて10年になるので、その見直しを行っている。「診療記録の正確な記載と責任の明確化」が基本であり、それらの情報をいかに使用するかが話題になっている。
- ・具体的には、①運用と利用に関する基本的事項が、②構成と記録に関する事項、③部門記録とチーム医療に関する事項、④紙媒体等による情報の取り扱いに関する事項、⑤特に配慮すべき情報または記録の扱いに関する事項の5項目にまとめた。
- ・「診療情報管理士とは」の改定素案をまとめた。諸外国においてはHealth Information Manager (HIM) と呼ばれて診療情報管理士の養成が進んでいることも視野に入れて、これからの教育等を行っていく。

##### ②第3回理事会（3月13日）

末永副会長より、以下の報告があった。

- ・診療情報記録指針の改訂について十数回にわたる議論を経て最終案が出てきたが、会議の時間内に内容を確認するのは難しいので、委員が持ち帰りメール審議で対応することになった。
- ・本年度の事業報告案及び平成29年度の事業計画案は、原案どおり承認された。
- ・次年度は役員改選時期に当たるので、宮崎監事から次期の支部長候補及び学識経験者候補案が提出され、承認された。

#### (11) WHO関連

##### ①第12回2016年第18回IFHIMA国際大会組織委員会（3月13日）

大井顧問より、以下の報告があった。

- ・IFHIMA国際大会は参加者278名、参加国は過去最多の43カ国となり大成功であった。その報告のために、今回最後となる組織委員会を開催した。
- ・発展途上国18カ国を集めて行った死因統計サミットは反響を呼び、多くの参加者から大変参考になったとの声が寄せられた。
- ・募金活動の目標を達成し、さらに約250万円の差額を生み出すことができたので、それを発展途上国支援基金（ジャパン・アワード）のためにIFHIMA本部に贈り、会長から感謝状を受け取った。
- ・もう一つの目標であった大会の報告集も分厚い立派なものが発刊できた。
- ・全事業を終了したので、組織委員会をこの日に解散した。

#### (12) 病院経営管理士通信教育関連

##### ①第2回理事会（2月24日）

報告は資料一読とした。

#### (13) 平成28年度医療機器・医療情報システム保守契約、費用に関する実態調査報告書

安藤常任理事より、以下の報告があった。

- ・昨年秋に行ったこの調査への回答施設数は408病院、会員病院の16.8%であったが、実態

に近い数字であると思われる。

- ・平成27年度の推計値によれば、全国医療機関費用の総額中7.3%、1兆9,000億円余を医療機器あるいは医療情報機器システムの保守に費やしている。クリニックを入れると約3兆になるであろう。このようなエビデンスをもとに、日本病院会としても委員会で問題解決のためにアクションを起こしていきたい。
- ・協力病院には全情報をウェブ上で提供することになっている。非回答の会員病院には概要版を提供する。

#### **(14) 平成28年度看護職に対する育児支援等の実際調査報告書**

望月理事より、以下の報告があった。

- ・日本病院会の会員から公私の開設主体別に487施設を選んで調査を行った。205施設から回答があり、回答率は42%であった。
- ・アンケートの項目として、職員状況、週休形態、年間休日数の総数、超過勤務、年次有給休暇の取得率、夜勤・交代制勤務の状況、産前・産後休業及び育児休業支援状況、育児短時間勤務制度、復職に向けた措置、施設内保育施設の整備状況、退職状況、ワーク・ライフ・バランスの推進体制等を取り上げ、それぞれ開設主体別及び病床規模別に調査した。
- ・今後この結果を整理し、前文及びまとめの文章を加えてアンケートを完成させる。

## **2. 日病協について**

下記会議の報告があり、了承した。

### **(1) 第139回診療報酬実務者会議（3月15日）**

中井常任理事より、以下の報告があった。

- ・中医協報告を受けた後、平成30年度診療報酬改定の要望（案）について議論した。病棟群単位による届出制度の継続という要望項目に関しては、現状では7対1や10対1の病棟群を利用している病院はほとんどないので見直したほうがよいとの意見が多く出て、見直すことになった。
- ・急性期病床の重症度、医療・看護必要度の評価に関しては、「外科系に偏っている」との表現を「外科系と同様に内科系も評価するような」に変えるべきとの意見があり、再度議論することになった。
- ・選定療養に導入すべき事例等についての意見募集を行うので、意見を寄せてほしい。

### **(2) 第149回代表者会議（3月24日）**

堺会長より、第139回診療報酬実務者会議の内容を検討し、要望書については再検討して早急に提出することになったとの報告があった。

## **3. 中医協について**

万代常任理事より下記会議の報告があり、了承した。

### **(1) 第347回総会（3月15日）**

- ・患者申出療養に関して、患者の思いに応える側面と臨床研究として実施する側面についてどう考えるかということで議論がなされた。予定症例数については目安とすることとなった。
- ・遺伝子組換え製剤2種類に対する最適使用推進ガイドラインが発表された。
- ・入院医療については、まだ総論的などころが議論されているところであるが、資料には看護師の加配のデータ、入院基本料の点数と、それに対する1日のレセプト請求点数のデータ、病床当たりの費用、7対1と10対1の比較などが示されており、全体としてオーバーラップが多いということを目指したいようである。



- ・医療費の動向のポイントとして、1日当たり医療費の伸び率は計1.2%と低い水準となったという数字が示されている。
- ・医療と介護の連携に関する意見交換について（案）として、今回は同時改定なので、それぞれの担当会議から委員を出して意見交換する形で設定されている。

#### **(2) 第38回費用対効果評価専門部会（3月15日）**

- ・費用対効果評価の在り方に関して、平成29年の夏を目途として中間的な取りまとめを行う。
- ・総合的評価（アプレイザル）等のあり方について（案）では、全体の立てつけがより詳細になされたことが一番のポイントである。
- ・総合的評価の示し方では、科学的観点からの増分費用効果比の評価軸として、支払い意思額を基本とするとされている。

#### **(3) 第128回薬価専門部会（3月15日）**

- ・今回は中間年の薬価調査・薬価改定をテーマにして議論した。
- ・薬価制度の抜本改革の中心は薬価改定を毎年行うということである。
- ・今後の検討課題は価格乖離の大きい品目をどう設定するかであるが、具体的な数値基準を示したほうがよいかどうかについても議論が余り進まないまま終わってしまった。

#### **(4) 第1回医療と介護の連携に関する意見交換（3月22日）**

- ・今回は、看取りを巡る状況、訪問看護の2つのテーマについて議論した。
- ・看取りを巡る状況では、いろいろな状況の人がいるので人生の最終段階における医療についてはパターン別に分けて評価することも必要ではないかとの意見など、様々な意見が出された。
- ・訪問看護については、ぜひ必要という意見が多かったが、詳細については資料一読を願う。

### **4. 四病協について**

下記会議の報告は資料一読とした。

#### **(1) 第12回医療保険・診療報酬委員会（3月3日）**

#### **(2) 准看協支援協議会（3月3日）**

#### **(3) 第12回総合部会（3月22日）**

#### **(4) 第12回日医・四病協懇談会（3月22日）**

### **5. 関係省庁等及び関係団体の各種検討会の開催報告について**

下記会議の報告があり、了承した。

#### **(1) 第10回医療計画の見直し等に関する検討会（3月8日）**

相澤副会長より、以下の報告があった。

- ・地域医療構想調整会議の進め方について、厚労省案では会議を年4回開催し、3回目で具体的に医療機関名を挙げて、その医療機関が担う機能を決定するとしているが、調整会議はもともと議論の場であり、いつまでに決定というのは変である。既にその通知が各県に行っており、県当局が計画づくりを進めているようなので注意してほしい。
- ・平成29年度以降の病床機能報告に関するスケジュール（案）はこのとおり進めていくことになると思われるが、地域ごとに病院機能を定めるために患者数が一番少ない6月のデータだけを使ってよいのか疑問である。
- ・病床ごとの医療内容の分析を行い、病床機能を選択する際の判断に係る定量的基準を策定するという方針に関しては、定量的基準の決め方についてこれから議論になるので、間違った方向に行かないように協力を願う。

#### **(2) 第2回心血管疾患に係るワーキンググループ（3月10日）**

報告は資料一読とした。

## 6. 医師の労働時間について

福田事務局長より以下の報告があり、了承した。

- ・ 聖路加国際病院に労働局の調査が入った際に、福井院長から疑問点を問い質したが、労働基準監督署としては答えられないので厚生労働省本省に聞いてほしいということであり、院長と私とで訪問してきた。
- ・ 労働者性の判断については、指導監督下の労働についての仕事の依頼、業務従事の指示等に対する諾否の自由の有無、業務遂行上の指揮監督の有無、拘束性の有無、代替性の有無、報酬の労務対償性等に基づいて労働基準監督署では判断している。
- ・ 厚労省等が出したガイドラインによれば、労働時間とは使用者の指揮命令下に置かれている時間である。
- ・ 働き方改革の焦点となっている罰則付の残業規制の適用に関しては、医師は建設業や自動車の運転業務と同様に猶予期間を設け、その間に労働時間の短縮など勤務環境の改善を急がせる方向で進んでいる。
- ・ 総務省の2012年の調査によれば、週60時間の残業労働時間超えは全国平均で14%、職種別には医師41.8%、運転手39.9%であった。

## 7. 第5回～第8回常任理事会承認事項の報告について

報告は資料一読とした。

## 8. 事務局職員の人事異動について

福田事務局長より報告があり、了承した。

### 〔協議事項〕

今回はなし。

以上で閉会となった。